

第2章 基本方針

1. 糸満市の地域づくりの方向性

1) 地域づくり構想の考え方

【沖縄観光の現状】

- ・ 沖縄観光はリピーターが増加し、行先が多様化している。
- ・ このため、誰もが行く定番の観光地よりも、自分の興味のある場所やほかの人からあまり知られていない自分だけの場所を求めるなど、訪問先が多様化している。

【本島南部観光の現状】

- ・ これまで本島南部の観光といえば、修学旅行生を対象とした平和学習や慰霊などが定番であったものの、近年は入込客数が減少傾向にある。
- ・ 世界遺産に登録されてから、歴史観光が注目を集め人気が高まっている。

【歴史資源】

- ・ 南部地域には世界遺産となった斎場御嶽を中心に、信仰と一体となった歴史文化が残されている。
- ・ 地域として誘客に取り組んでおり、今後も集客の増加が予想される。

南部地域の歴史資源の活用

【自然環境・景観】

- ・ 南部地域に広がる雄大な海浜景観や森林景観は大きな魅力である。
- ・ 南部には豊かな自然が残されており、自然体験などのフィールドとして魅力が高い。

貴重な自然の活用と保全

時代に合わせた新しい観光の魅力を提供

すくみち
琉球回廊(宿道)構想

- ・ 県内各所に残る歴史資源を有機的につなぎ、周遊観光を誘導する。
- ・ 利用者がテーマを持って周ることのできるコースを複数用意する。

2. 琉球回廊(宿道)構想

1) 琉球回廊(宿道)構想の基本的な考え方

「琉球回廊(宿道)構想」は、本島南部に存在する歴史資源が連携することで、魅力を高めることを意図しており、個々の歴史資源で長時間のプログラムを組むことは困難であるものの、複数の歴史資源が連携し周遊観光に誘導することで、半日コース・1日コースなど利用時間の延長と魅力を高めることが可能となる。

それぞれテーマを持ったコースを複数設定することが重要であり、利用者の好みに合わせた利用が選択できるとともに、次回の来訪時には別のコースを周るなどリピーターの獲得が期待できる。

沖縄県内にはいくつかの歴史観光コースが設定されており、「ジョン万次郎コース」もこれに続く新しいコンテンツとして育成する。

歴史資源の連携

複数の歴史資源が連携することにより観光メニューとしての役割を持たせる。

複数のテーマ設定

複数の歴史資源を使い分けることにより、好みに合った多様なテーマを設定。

リピーターの獲得

多様なテーマを用意することで周遊観光機会が増える。

ジョン万次郎コース

重要人物にスポットを当てて琉球回廊の付加価値を高める。

【沖縄県内の主な歴史をテーマにしたコース設定】

沖縄の世界遺産観光：ユネスコ世界遺産に登録された歴史資源を回るツアーで、各市町村や旅行代理店が独自のツアーを立ち上げている。

主な見所は、今帰仁城跡、座喜味城跡、勝連城跡、中城城跡、首里城跡、園比屋武御嶽石門、玉陵、識名園、斎場御嶽である。

琉球歴史回廊：沖縄総合事務局が策定した歴史観光プロジェクトで、県内各地域がそれぞれの歴史文化に光を当てる活動や事業を通じて、魅力ある景観づくりや生き生きとした交流の輪を広げ、住民が主体的に地域づくりにかかわっていくことを目指した事業である。

設定された拠点は首里ウヤグニ(総合)、中城ムヌガタイ(歴史物語)、読谷山ムラアシビ(村遊び)、コザチャンプルー(複合文化)、勝連キムタカ(豊稷村島)などである。

東御廻い(アガリマリー)：琉球の祖神アマミキヨが久高島に降り立ち、各地を巡ったことにちなみ、琉球国王が王国安泰・五穀豊稷を祈願する行事であり、後に一般化していった。現在は、沖縄の聖地を巡る観光コースとして各市町村がプロモーションしており、来訪者が増加傾向にある。

主な歴史資源は、那覇市の園比屋武御嶽、与那原町の御殿山、親川、南城市の場天御嶽、月代グスク(月代宮)、テダ御川、斎場御嶽、知念城跡、知念大川、受水張水、ヤハラツカサ、浜川御嶽、ミントングスク、玉城城跡である。

第2章 基本方針

2) 展開例 ～ジョン万次郎コース～

ジョン万次郎の生涯は、教育的効果が高く、エデュケーショナル・ツーリズム（※）のテーマとして優れている。

ジョン万次郎が上陸し、沖縄県内に滞在した際の所縁の地をつなぎ、彼の功績や当時の沖縄歴史文化を学ぶことができるコース設定とする。

ジョン万次郎がたどったコース周辺にある史跡の復元整備の可能性を検討するとともに、解説サインなどを設置して当時の街並みや社会を知ることのできる観光コースを整備する。

糸満市は、ジョン万次郎の上陸地である大度海岸（小渡浜）があり、さらに当時の宿道沿いに摩文仁番所や真壁番所、報得橋などがあり、これらを拠点化した歴史観光を提供するとともに、万次郎が訪れた豊見城市の翁長集落や那覇市の小禄番所などと連携を図り、ジョン万次郎をテーマとした観光コースの創出を図る。

（※）エデュケーショナル・ツーリズム

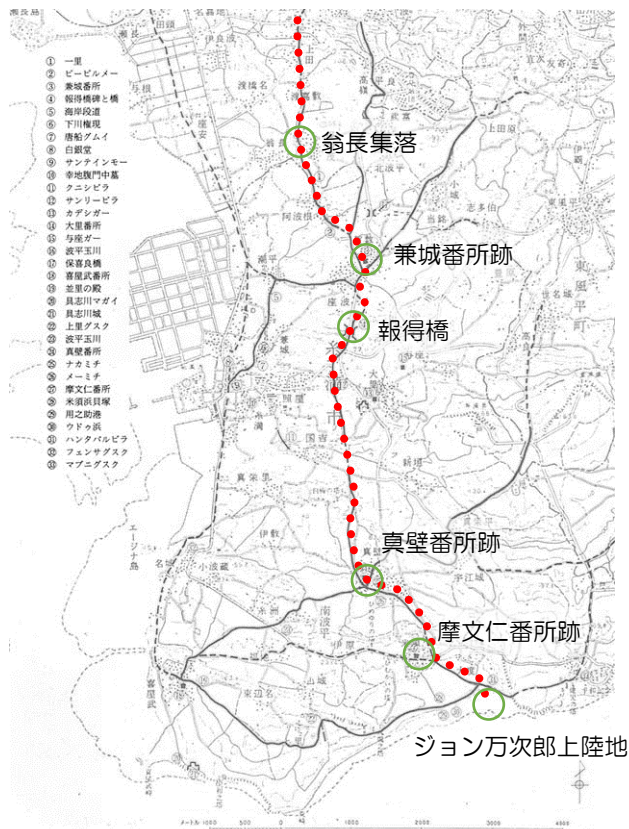
「学ぶ」エデュケーションと「旅行、レクリエーション」ツーリズムとを組み合わせた造語で、教育を目的とした旅行のこと。



ジョン万次郎上陸地（糸満市大度海岸〈小渡浜〉）



ジョン万次郎記念碑（豊見城市高安）



琉球回廊（宿道） ～ジョン万次郎コース～（糸満-豊見城）



琉球回廊（宿道） ～ジョン万次郎コース～（豊見城-小禄）

3. ジョン万次郎コースにおける計画の位置付け

糸満市の観光は、平和祈念公園やひめゆりの塔などに代表される平和観光が主体であるが、来場者が減少傾向にあるなど新たな魅力の創出が求められていた。

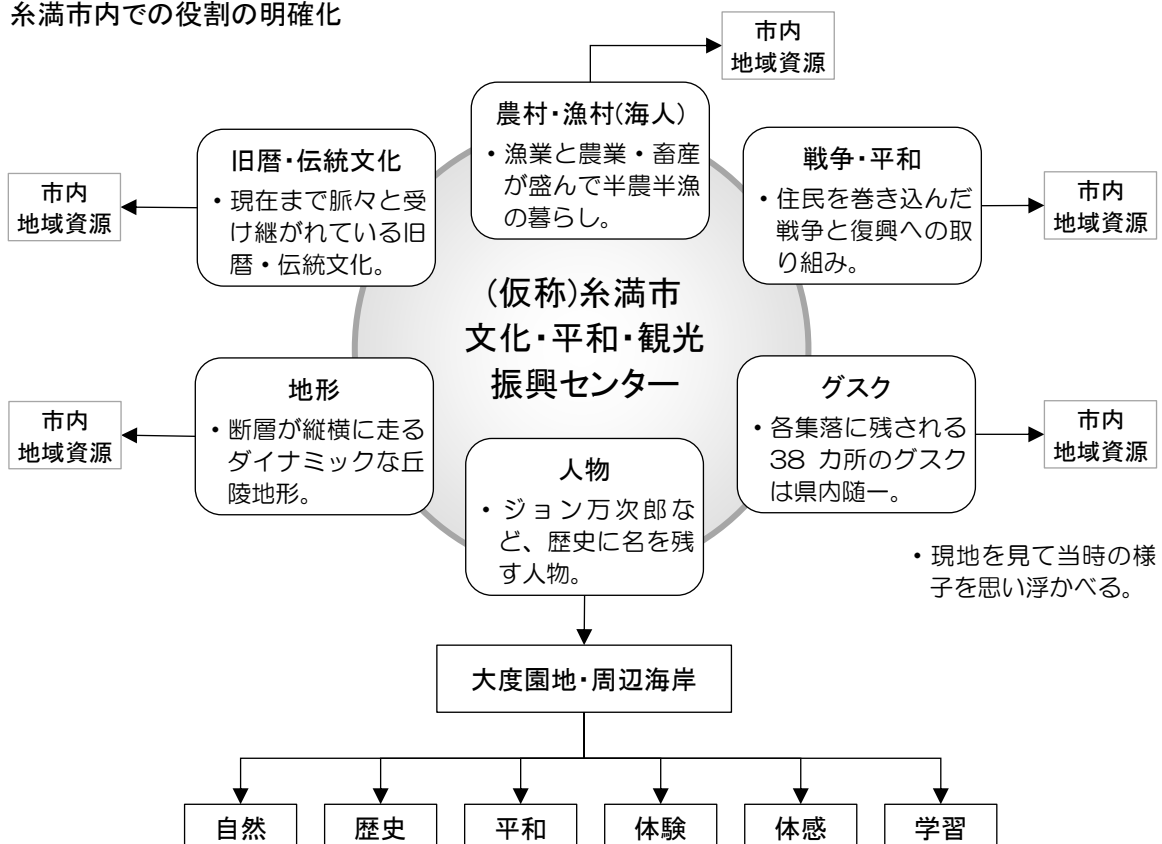
このため、糸満市ではこれまで活用されてこなかった市内の観光資源を活用した魅力づくりを検討し、糸満市観光振興基本計画(平成 28 年)や「歴史の再発見による地域づくり事業～琉球回廊(宿道)構想～」(平成 28 年度)を策定し、その方向性を示してきた。

「歴史の再発見による地域づくり事業～琉球回廊(宿道)構想～」においては、ジョン万次郎が上陸した際にたどったコース上の史跡をつなぐ琉球回廊(宿道)ジョン万次郎コースを提案し、その可能性を検証した。

ジョン万次郎コースにおいて大度海岸は、万次郎が最初に足を踏み入れた地であり、コースの起点として重要な位置付けとなることから、そのことを示すサインや記念碑などの設置が求められている。

一方、米須・山城海岸から大度海岸に至る周辺地域は、豊かな自然環境が残されていること、サーフィンやダイビングなどのマリナクティビティのポイントとして知名度が高いことから、これらを目的とする観光客の誘客を拡大できる可能性があり、糸満市の新たな観光拠点として活用を図っていくことが期待されている。

糸満市内での役割の明確化



・大度園地周辺海岸の自然や歴史・文化などの地域資源を活用する。

4. 需要推計

関係団体からのヒアリングにより、年間利用人数を把握し、駐車場台数を算定した。

【大度海岸】28,588人／年(園地内駐車場・園地、園地北側有料駐車場およびアクセス道)

【米須海岸】55,398人／年(県道沿い、魂魄の塔向かい道路沿い・広場および周辺)

【山城海岸】10,677人／年(海岸広場、県道沿い)

3,322人／年(平和創造の森公園西側駐車場)

駐車スペース利用状況

【大度海岸】		【a】		【b】		【c】		【a×b×c×年間】			
No	駐車スペース	数値	ピーク時(5月-10月)		11月-4月		利用率	1台当たり	利用人数		
			月-金	土日祝日	月-金	土日祝日	土日平均	乗車人員	日	年間	
①	園地内駐車場	28 台	80%	100%	40%	100%	100%	1.3	36	13,286	
②	園地内園路	5 台	0%	100%	0%	50%	75%	1.3	5	1,779	
③	園地北側有料駐車場(民有地)	22 台	0%	100%	0%	50%	75%	1.3	21	7,829	
④	アクセス道	16 台	0%	100%	0%	50%	75%	1.3	16	5,694	
※上記の数値は、満潮時刻前後2時間(4時間)の利用状況のもの										28,588	

※上記の数値は、満潮時刻前後2時間(4時間)の利用状況のもの

※利用者の主な目的は、サーフィン、ダイビング、キャンプ、ビーチパーティー、遊泳、自然観察

※数値は、沖縄サーフライダー連盟事務局からのヒアリングにより設定

【米須海岸】

No	駐車スペース	数値	ピーク時(5月-10月)		11月-4月		利用率	1台当たり 乗車人員	利用人数	
			月-金	土日祝日	月-金	土日祝日			日	年間
①	県道沿い	60台	80%	100%	60%	100%	100%	1.3	78	28,470
②	魂魄の塔向かい道路沿い	15台	60%	80%	30%	70%	75%	1.3	15	5,338
③	魂魄の塔向かい広場	20台	60%	100%	30%	70%	85%	1.3	22	8,067
④	魂魄の塔周辺	30台	80%	100%	70%	90%	95%	1.3	37	13,523
										55,398

※上記の数値は、満潮時刻前後2時間(4時間)の利用状況のもの

※利用者の主な目的は、サーフィン、参拝者、自然観察

※数値は、沖縄サーフライダー連盟事務局からのヒアリングにより設定

【山城海岸】

No	駐車スペース	数値	ピーク時(5月-10月)		11月-4月		利用率	1台当たり 乗車人員	利用人数	
			月-金	土日祝日	月-金	土日祝日			日	年間
①	海岸広場	15台	80%	100%	80%	100%	100%	1.3	20	7,118
②	県道沿い	10台	50%	100%	0%	50%	75%	1.3	10	3,559
										10,677
③	平和創造の森公園西側駐車場	28台	0%	50%	0%	0%	25%	1.3	9	3,322

※上記の数値は、満潮時刻前後2時間(4時間)の利用状況のもの

※利用者の主な目的は、サーフィン

※数値は、沖縄サーフライダー連盟事務局からのヒアリングにより設定

注意：自家用乗用車の平均乗車人員は、「平成17年度 全国道路・街路交通情勢調査、自動車起終点調査」(国土交通省道路局)より、非業務1.30人/台を採用(参考一業務1.22人/台)

駐車場面積算定表

【大度園地】

項目	設定値	数値		備考
対象人数		28,588	人	
対象日利用者数	1%	286	人	集中度※1
同時滞在者数	100%	286	人	同時滞在率※2
駐車台数	2.5 人/台	114	台	乗車率※3
駐車場面積	30 m ² /台	3,432	m ²	空間原単位※4

※1：観光・レクリエーション計画論（ラック計画研究所）P197より海水浴場の値を採用

※2：観光・レクリエーション計画論（ラック計画研究所）P197より海水浴場の値を採用

※3：造園ハンドブック（日本造園学会）P1050より

※4：観光・レクリエーション計画論（ラック計画研究所）P198より

【米須海岸】

項目	設定値	数値		備考
対象人数		55,398	人	
対象日利用者数	1%	554	人	集中度※1
同時滞在者数	100%	554	人	同時滞在率※2
駐車台数	2.5 人/台	222	台	乗車率※3
駐車場面積	30 m ² /台	6,648	m ²	空間原単位※4

【山城海岸】

項目	設定値	数値		備考
対象人数		10,677	人	
対象日利用者数	1%	107	人	集中度※1
同時滞在者数	100%	107	人	同時滞在率※2
駐車台数	2.5 人/台	43	台	乗車率※3
駐車場面積	30 m ² /台	1,284	m ²	空間原単位※4

【平和創造の森】

項目	設定値	数値		備考
対象人数		3,322	人	
対象日利用者数	1%	33	人	集中度※1
同時滞在者数	100%	33	人	同時滞在率※2
駐車台数	2.5 人/台	13	台	乗車率※3
駐車場面積	30 m ² /台	396	m ²	空間原単位※4

便所面積算定表

項目	設定値	数値		備考
対象人数		28,588	人	
対象日利用者数	1%	286	人	集中度※1
同時滞在者数	100%	286	人	同時滞在率※2
便所穴数	1.25%	4	穴	利用率※3
便所面積	3.3 m ² /穴	13	m ²	空間原単位※4

※1：観光・レクリエーション計画論（ラック計画研究所）P197より海水浴場の値を採用

※2：観光・レクリエーション計画論（ラック計画研究所）P197より海水浴場の値を採用

※3：造園ハンドブック（日本造園学会）P710より

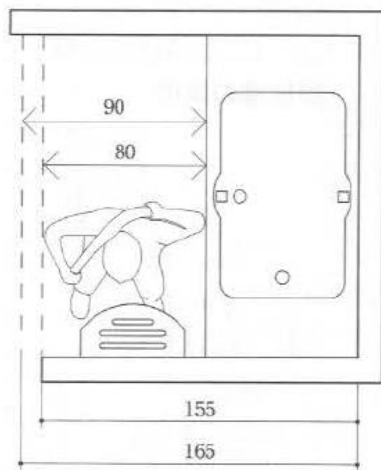
※4：造園ハンドブック（日本造園学会）P710より

項目	設定値	数値		備考
対象人数		55,398	人	
対象日利用者数	1%	554	人	集中度※1
同時滞在者数	100%	554	人	同時滞在率※2
便所穴数	1.25%	7	穴	利用率※3
便所面積	3.3 m ² /穴	23	m ²	空間原単位※4

項目	設定値	数値		備考
対象人数		10,677	人	
対象日利用者数	1%	107	人	集中度※1
同時滞在者数	100%	107	人	同時滞在率※2
便所穴数	1.25%	1	穴	利用率※3
便所面積	3.3 m ² /穴	3	m ²	空間原単位※4

項目	設定値	数値		備考
対象人数		3,322	人	
対象日利用者数	1%	33	人	集中度※1
同時滞在者数	100%	33	人	同時滞在率※2
便所穴数	1.25%	1.0	穴	利用率※3
便所面積	3.3 m ² /穴	3	m ²	空間原単位※4

※シャワー室1口の面積試算



浴場＝1.65m×1.6m＝2.6m²

更衣室＝浴場面積×0.5＝1.3m² 合計：3.9m²

各ゾーンのシャワー口設置数：男女各3口 計6口

平和創造の森と同数の確保を想定

※必要面積＝3.9×6＝23.4m²